



医師：島田 潔

「ジャーナリスト」になって世界中で起きている色々な問題を報道したいなあと思います。語学が堪能、命知らず、死んでも迷惑が掛からない…など、現世の僕では無理なことばかり…ですね。



医師：藤井 秀樹

生まれ変わったら世界を股にかけた仕事をしてみたいです。一年の半分は海外暮らしで世界中に友達がいって楽しく食事をしたり云々。生まれ変わったら直ぐに英語の勉強をしなくては(笑)



医師：浅海 直

職業ではないですが…宇仁先生になるか、小学生位から宇仁先生の友人になりたいと思います。(理由は秘密です)



医師：安井 宏仁

職業と言うより、3世代先の人に生まれ変わってみたいです。できれば自分のひ孫とか。テクノロジーの進歩で文明が発展しているのか、あるいは環境破壊が進んでいるのか…。明るい未来であって欲しいです。



医師：御子柴 路朗

生まれ変わってなりたいのはシステムエンジニア、プログラマー系のお仕事ですね。もともとその領域は興味があった分野なので、自分でシステムを作り上げていく仕事は今も興味があります。



医師：長谷川 大輔

空を飛んでみたいとずっと思っていたので、昔はパイロットになりたかったのを思い出しました。高所で足がすくんでしまうことが多く、マンション高層階への訪問診療はやや緊張します。



医師：宇仁 淳

感性豊かな職業、デザイナーや音楽家に憧れます。幼少期は父が大使館の顧問医でしたので、外交官に憧れました。なれるかなれないかは別の話ですね、どんな仕事でも目標を持って極めたいと思います。



医師：鈴木 陽一

全く経験はありませんが、酪農家になってみたいです。朝が早いのが一番のネックです。



医師：伊藤 直

今だって、眼が良かったらサッカー選手になれたと思っています。来世は視力抜群に生まれる予定です。あー、眼がよかったら今頃キャンプ・ノウだったなあ。



医師：三寺 隆之

色々ありますが、飲食業か音楽関係の仕事をやりたいですね。比重としては音楽関係なのですが、将来的に不安(笑)が残るので、飲食とのコラボ業務が良いですかね。後は宇仁先生に生まれ変われば…(笑)



医師：糸山 智

職業ではありませんが、欧米人に生まれたいです。英語が苦手でコンプレックスなのです。英会話教室にも通いましたがダメでした。漢字も苦手です。たぶん、わたくしの左脳の言語中枢がひらがなしか対応していないのでしょう。英語が話せれば、文字通り世界が広がったろうなと思います。



医師：中山 昇

正直今まで、医者以外の職業をあまり考えたことがなかったのですが、クリニックをリニューアルした時に、建築士の方と部屋のデザインなど考える機会があって、この職は色々創造力を働かせるので楽しそうだなと思いました。

## 医療～豆知識～ コーナー 今月のテーマ：耳垢と耳掃除

医師：藤井 秀樹



みなさんは耳掃除していますか？ している方はどのようにしていますか？  
 耳垢は耳の奥で作られた外耳道の皮膚が手前に徐々に移動して入り口付近で剥がれ落ちたものに、汗や油などの分泌物が混ざって出来上がったものです。  
 具体的には外耳道の外側 1/3、耳の入り口から 1.5センチ程度の軟部外耳道という所に出来ます。そこに出来た耳垢は口を動かす時などに自然に落ち体外に排出されます。すなわち耳掃除をしなくても耳垢は自然に耳の外に運び出されて捨てられる仕組みになっているんです。これを自浄作用とも言います。  
 その事を踏まえて考えると耳掃除はやらなくても良く、やっても耳の入り口部分から 1.5センチ程度までを綿棒で軽く取るくらいでいいという事になります。  
 そう聞くと、皆さんもっと深くまでやっていませんか？ しかもゴリゴリと掻くように(笑)。でも耳かきって気持ちいいですよね。これは快感を生じさせる迷走神経という神経が耳の中に走っているからです。耳掃除をしてくれるメイドカフェがあるのもうなずけます(笑)。  
 しかしやり過ぎる事で外耳道を傷つけたり耳垢を奥へ押し込んでしまったりする事があります。もっと言うなら耳垢は耳の中の潤いを保ち、ほこりや汚れから耳を守り、雑菌の繁殖を防ぐ働きもあると言われています。  
 ですので、月に 1~2 回程度、耳の入り口付近を綿棒で軽く拭き取る程度にしてください。それで取れない耳垢は耳鼻科の先生に取ってもらった方が良いでしょう。



## 新しい常勤医師からのご挨拶

4月より新しく常勤医師として往診を行う丹下徹彦医師からのご挨拶を掲載致します。



常勤医師 丹下 徹彦(たんげ てつひこ)

こんにちは、丹下徹彦と申します。これまで、循環器科医としてカテーテル治療と心不全治療を中心に行ってまいりました。板橋区役所前診療所で8年ほど週に1回往診で回っていました。在宅医療に関してまだまだ知らない事も多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが、宜しくお願い致します。

勤務歴：警察病院

## ～連携室からのメッセージ～

このコーナーでは当グループ連携室スタッフからのメッセージを掲載致します。



昨年4月の緊急事態宣言以降、訪問診療を希望する人が非常に増えています。これまでの依頼ケースに加えて、新型コロナウイルス感染を懸念して通院から移行する人、入院すると面会ができなくなることに伴って、入院治療を断り帰宅した人、入院したものの予定より早く退院した人、退院したら家族や介護関係者などが思っていたよりも状態が悪かった人、最期を家族と在宅で迎えた人…。私たちは、患者さまの病状や体調、残薬や事情を考慮して初診のスケジュールを調整しておりますが、ご希望の日時のアレンジができずにご苦労をお掛けすることもあります。皆さまとともに地域医療を支えてゆければ幸いです。